

## 沼津市江ノ浦湾産の化石サンゴ 1 (地学散歩(12))

著者	高橋 豊
雑誌名	静岡地学
巻	32
ページ	1-3
発行年	1976-06-20
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00025686">http://doi.org/10.14945/00025686</a>

# 沼津市江ノ浦湾産の化石サンゴ 1.

高橋 豊\* 地学散歩(12)

図版の化石サンゴは、駿河湾でも最も奥まった位置にある江ノ浦湾に注ぐ狩野川放水路放出口の右岸、海面下 3 m 程の堆積物中に発見されたものの一部である。10 数年を経た現在では採集することはむずかしい。

棲息していた時代は、 $^{14}\text{C}$  年代測定値が出ていないのではっきりしない。隣接した狩野川平野に、 $^{14}\text{C}$  年代で  $8890 \pm 170 \text{ B.P.}$  を下限とする縄紋早期の海進による沖積層の存在が知られていることから推測すれば、現在よりやや高い

水温が期待できるこの時期に、そと海に面していた産出地点付近で、礁をつくって棲息していたサンゴと考えられる。

江ノ浦湾(口野)産化石サンゴの種の構成にはどんな特徴がみられるだろうか。浜田隆士氏は現生造礁サンゴを以下の様に分類している。

強南方型 = *Pachyseris*, *Galaxea*, *Echinopora*, *Halomitra*. (属)

南方型 = *Pocillopora*, *Acropora*. (属)

本土型 = *Echinophyllia*, *Caulastrea*, *Pectinia*, *Alveopora*. (属)

下線を付した属は江ノ浦湾(口野)産化石サンゴの中にもみられる。南方型のものとして *Acropora* (ミドリイン類) が 1 種みられる。これは、前記沖積層中に、現在鹿児島以南に分布するといわれる「シオヤガイ」が多量に産出するのと付合し、より高水温の古環境、「古狩野湾」の存在を裏付けることにもなり、興味深い。

写真 3 のアワサンゴは直径 5 ~ 6 cm のボール状の群体となり、部分拡大した写真 1・2 のようにその隔壁は網目状をなし、壁には孔があいている。写真 6 のタバネサンゴの個体は 10 数 cm と細長く、表面に縦に条が走り、くびれがある。莖は写真 4 右のように中央でくびれるものが多い。隔壁縁部は鋸歯状。軸柱は隔壁の先端がゆるく集まってできている。写真 12 は *Lobophyllia japonica* とおもわれ、隔壁の突起が強い。莖が円形で若い個体らしい。写真 7 ~ 10 のキクメイシはサンゴ礁では、ごく普通にみられる。温帯のサンゴは夏期の速い生長速度に対して、低温時には、生長が著しく停滞するため、樹木の年輪(写真 9)のような骨格構造をみせる。

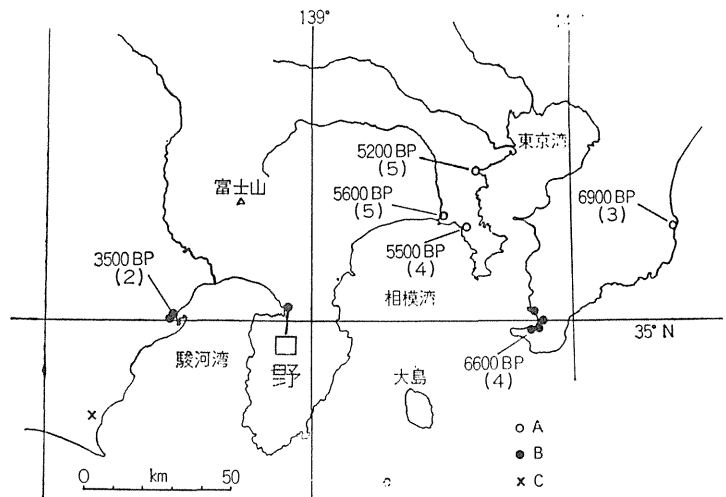


図 1 沼期造礁性サンゴの分布とその含有層について得られた平均測定年代。カッコ内の数字は測定件数を示す。  
A : *Oulastrea crispata*, B : hermatypic corals,  
C : 女神・男神礁性石灰岩 海洋科学 Vol. 7, P 559 ~ 606,  
浜田隆士 : サンゴ礁 / 4 による。

\* 静岡県立三島北高等学校

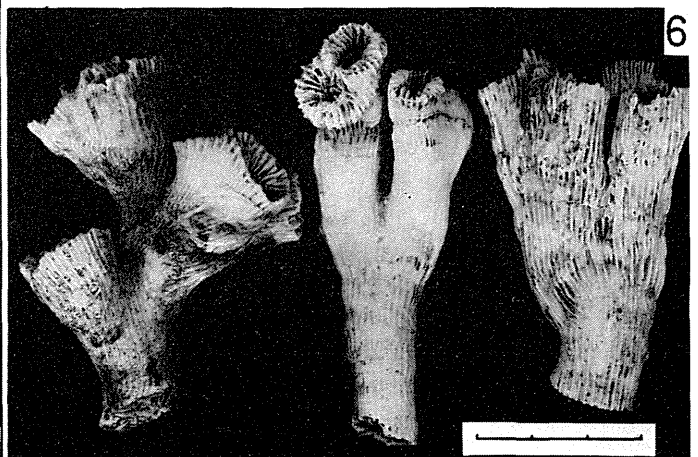
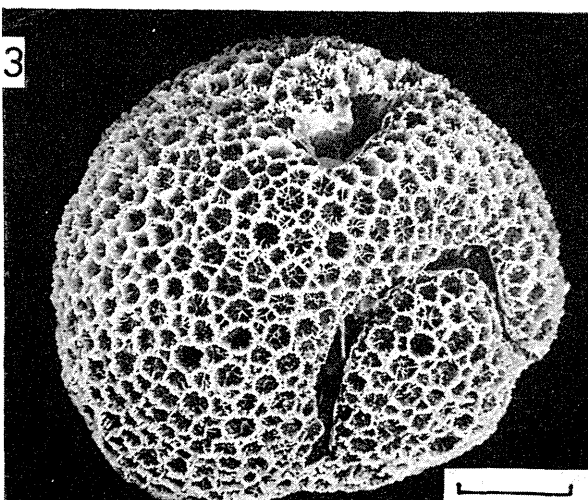
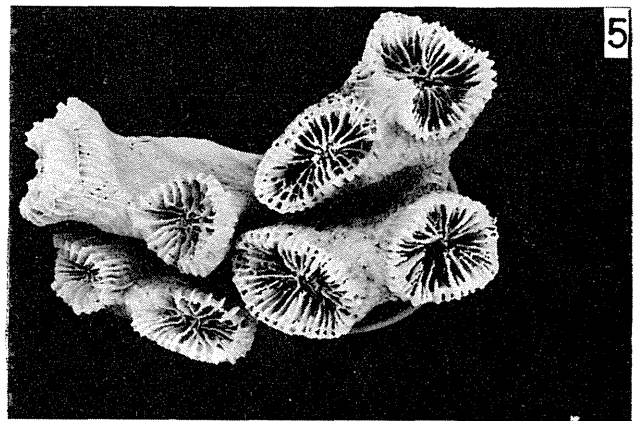
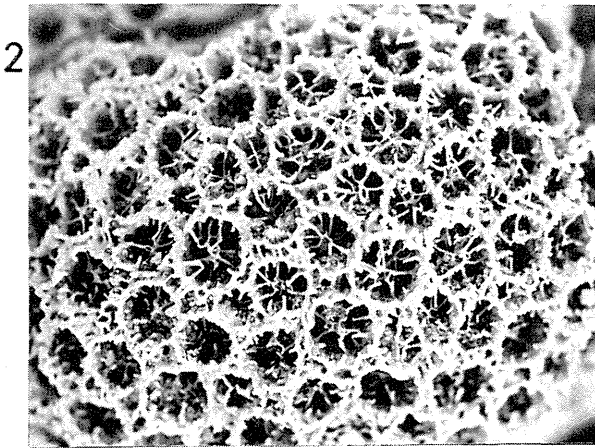
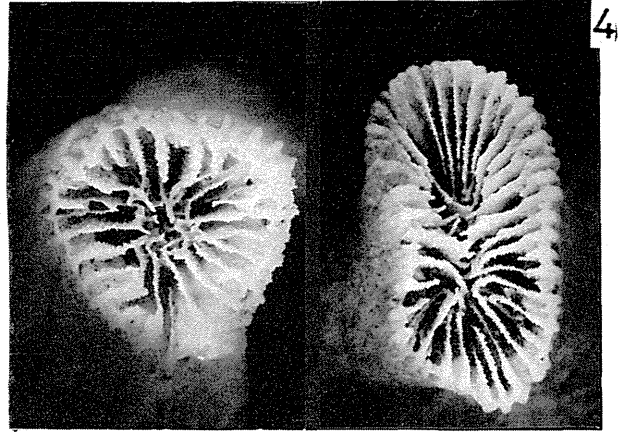
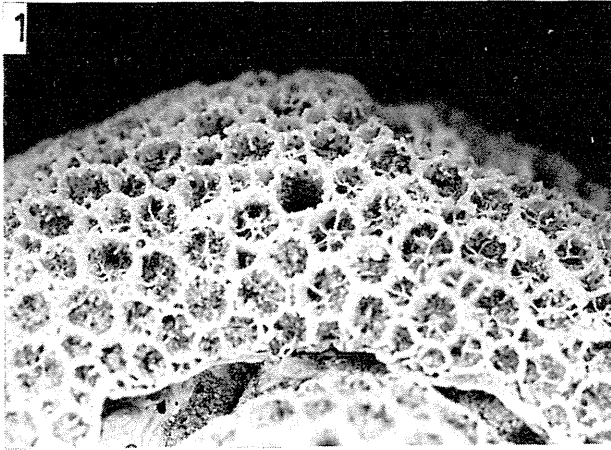


写真3. *Alveopora cf. verrilliana* VAUGHAN (アワサンゴ)。1, 2。同拡大。  
 写真6. *Caulostrea tumida* MATTHAI (アオバナイボヤギ)。4, 5。同拡大。  
 スケールは cm 単位で、3・6・9・12 にのみ適用。(他の拡大は倍率はまちまち)

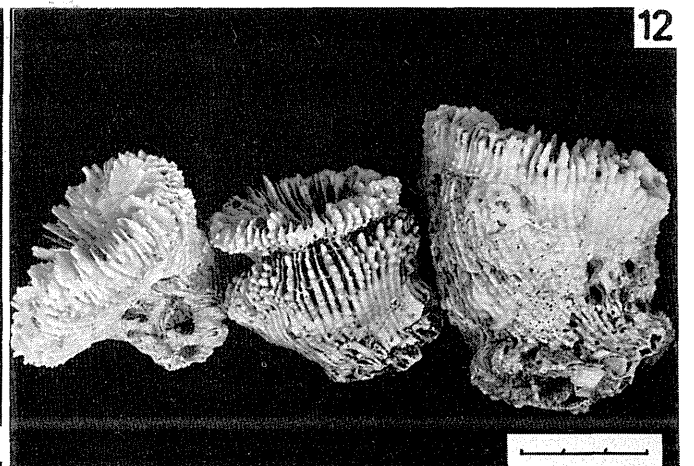
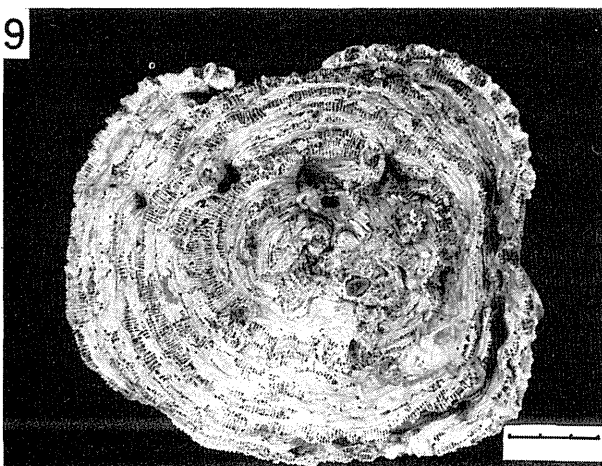
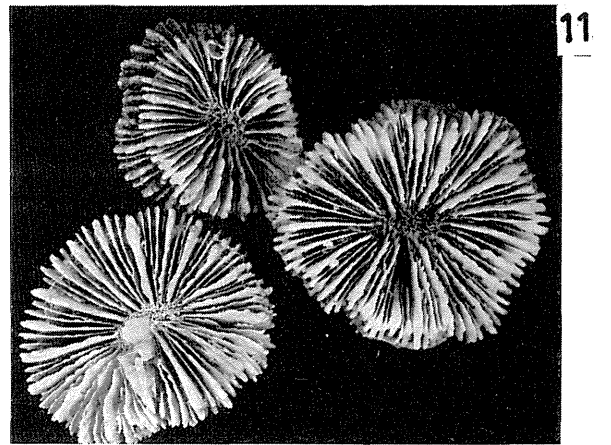
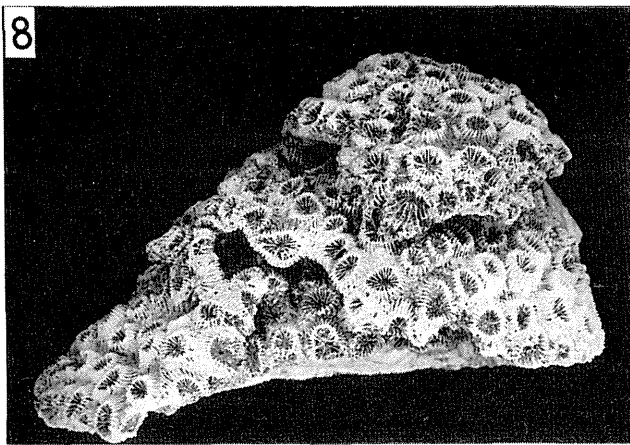
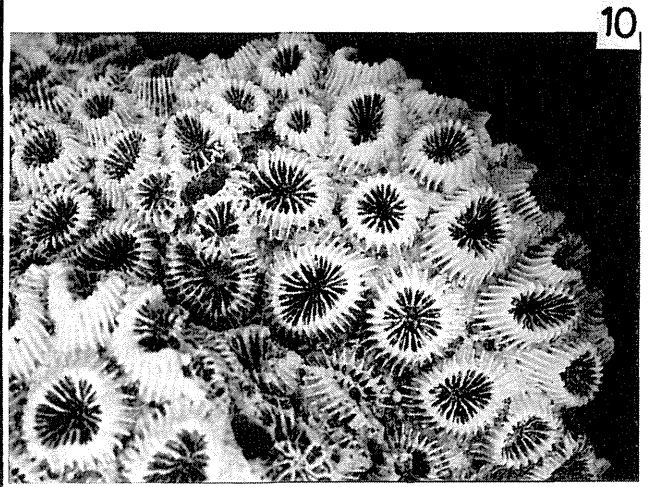
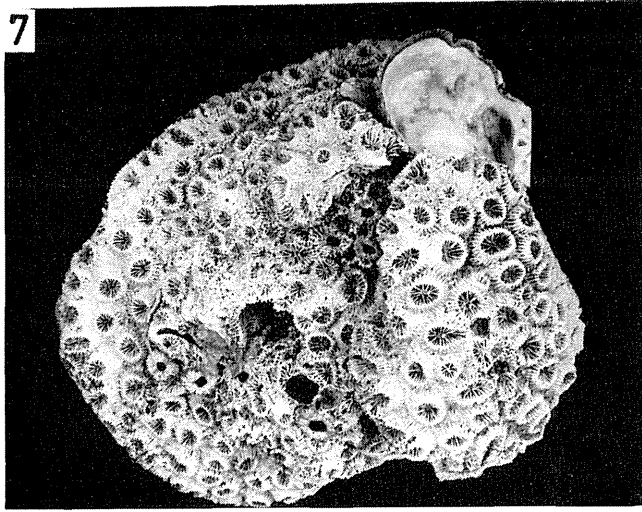


写真9. *Favia speciosa* (DANA) (キクメイシ) 底面。7. 同上面。8. 同側面。10. 同拡大。  
 写真12. *Lobophyllia japonica* (YABE & SUGIYAMA) 側面。11. 同上面。